

CALENDRIER 上映スケジュール

9月28日(土) samedi 28 septembre	14:30	セザール César (132分)
	17:15	ニースについて À propos de Nice (31分) 天使の入り江 La Baie des anges (80分)
10月12日(土) samedi 12 octobre	14:30	ラ・シオタ駅への列車の到着 L'Arrivée d'un train à La Cictat (45秒) サイコロ城の秘密 Les Mystères du Château de Dé (26分) 地中海 Méditerranée (43分)
	16:15	ゴダール・ソシアリズム Film Socialisme (102分)
11月9日(土) samedi 9 novembre	14:30	ルル Loulou (110分)
	17:00	黒いヴィーナス Venus noir (164分)

*3日間とも2回目の上映後、映画評論家の大寺眞輔氏によるティーチインがございます。

会場:東京藝術大学馬車道校舎

入場料:一般 1,200円 / 会員 600円(芸大生無料。同日2回目は一般600円)

お問い合わせ:アンスティチュ・フランセ横浜(旧・横浜日仏学院) tel.045-201-1514

www.institutfrancais.jp

Lieu : Université nationale des Beaux-Arts de Tokyo, campus Bashamichi

Entrée : 600 yens pour adhérents, 1200 yens pour non-adhérents

(600 yens pour la 2ème projection de la journée)

Renseignements : Institut français du Japon - Yokohama

Tél : 045-201-1514 www.institutfrancais.jp

「地中海映画祭2013 in 横浜」

主催:アンスティチュ・フランセ日本

共催:東京藝術大学映像研究科

助成:アンスティチュ・フランセパリ本部

オフィシャル・パートナー:ロクシタンジャパン株式会社、笹川日仏財団、EU・ジャパンフェスト日本委員会

協力:ユニフランス・フィルムズ、エルメスジャパン株式会社

フィルム提供・協力:リュミエール協会、シネタマリス、コンパニ・メディテラネエンヌ・ドゥ・フィルム、国際交流基金、

JASPAR-SPDA、フランス映画社、ボム・フィルム

Festival du Film Méditerranée 2013 à Yokohama

organisé par l'Institut français du Japon,

co-organisé par l'Université nationale des Beaux-Arts de Tokyo

partenaires officiels : l'Occitane, Fondation franco-japonaise Sasakawa, EU-Japan Fest Japan Committee

avec le soutien de : Institut français, uniFrance Films, HERMÈS JAPON CO., LTD..

merci à : Associations frères Lumières, Ciné-tamaris, Compagnie méditerranéenne de Film,

Japan Foundation, JASPAR-SPDA, Shibata Organizations Inc., P.O.M Films.

東京藝術大学馬車道校舎 〒231-0005 横浜市中区本町4-44

○みなとみらい線「馬車道駅」5番出口すぐ ○JR・市営地下鉄「関内駅」より徒歩8分

Ligne Minatomirai BASHAMICHI 馬車道		■ LAWSON	
馬車道駅出口5 Sortie 5 ● 東京芸術大学馬車道校舎 ● 県立歴史博物館	● 地下鉄関内駅出口9 ● Sortie 9 du Métro Kannai	● 地下鉄関内駅出口7 ● Sortie 7 du Métro Kannai	● JR 関内駅北口 ● Sortie Nord
● 馬車道 Rue Bashamichi	● 関内大通り Av. Kannai		
Royal Host	● アンスティチュ・フランセ横浜 L'INSTITUT	● セルテ Certé	● 横浜市役所 Mairie de Yokohama
← 至桜木町 En direction de Sakuragi-cho			● JR 関内 KANNAI 至石川町→ En direction de Ishikawa-cho
			● 国道133号 Route133
			● 国道16号 Route16

Cinéclub à Yokohama

FESTIVAL DU FILM

MEDITERRANÉEN
2013



Programme conçu avec
Shinsuke Odera (Critique de cinéma)



à cause de quoi la lumière

à cause de l'obscurité

アンスティチュ・フランセ横浜 シネクラブ

地中海映画祭 2013 in 横浜

企画協力:大寺眞輔(映画批評家)

2013年9月28日(土)・10月12日(土)・11月9日(土)

会場:東京藝術大学馬車道校舎

les 28 septembre, 12 octobre et 9 novembre

à l'Université nationale des Beaux-Arts de Tokyo, Campus Bashamichi

INSTITUT
FRANÇAIS



uniFrance films



地中海を題材とする映画の特集は、当然ながら、異文化との交流、他者との共生、マルチカルチャリズムを巡るものとなるだろう。これはしかし、微妙な主題ではある。高度テクノロジー化社会、情報化社会、インターネット社会に生きる私たちは、ありとあらゆる情報がリアルタイムに飛び交い、人と人とを歴史上かつてない距離にまで近づけると同時に、些細な誤解や異なる立場、不幸な行き違いなどから大きな衝突や葛藤が生じるさまを毎日のように目撃しているからだ。私たちはもはや、豊かで美しい多文化共生の地を、私たち自身に身近なものとして牧歌的に信じるのが難しい世界に生きているのかもしれない。

だが、であるからこそ逆に、今こそあらためて「地中海」を検討してみようではないか。パニョルやヴィゴが見せる人と風景の豊かさ、それを受け継ごうとしたドゥミの想い。人間の本性を鋭くえぐるピアラのまなざしとケシシュの問いかけ。そして、地中海という地から私たちの現在を照射しようとするジャン＝ダニエル・ポレとゴダールの試み。そこからは、シリア情勢が緊迫度を増す世界の中を生きる私たちにとって、きわめてリアルな問題が見えてくる筈である。

2013年8月29日 大寺眞輔

*この特集はアンスティチュ・フランス日本の他の支部、東京、福岡、関西に巡回予定です。

東京：第1部＝8月30日(金)～9月15日(日)
第2部＝10月20日(日)・26日(土)・27(日)
会場／アンスティチュ・フランス東京

福岡：10月5日(土)～10月11日(金)
会場／KBCシネマ

関西：10月19日(土)～10月25日(金)
会場／梅田ガーデンシネマ、京都シネマ



La présentation de ce programme est prévue à Tokyo, Fukuoka, Kyoto et Osaka :

Tokyo : 1ère partie du 30 août au 15 septembre 2013
2ème partie les 20, 26 et 27 octobre

Fukuoka : du 5 au 11 octobre à KBC Cinema 1 et 2

Kansai : du 19 au 25 octobre à Umeda Garden Cinéma d'Osaka et à Kyoto Cinéma

9月28日(土) Samedi 29 septembre

Première séance 14:30~

セザール César de Marcel Pagnol

1935年 / フランス / 132分 / モノクロ / 日本語字幕付 / 35mm

監督：マルセル・パニョル 出演：レミユ、ピエール・フレネ、フェルナン・シャルパン、オラーヌ・ドゥマジス

マルセル・パニョルは南仏で生まれ、演劇や映画においてそこを舞台にした地方色豊かな作品を数多く残した。特に彼を有名にしたのがマルセイユを舞台に展開する三部作(「マリウス」「ファニー」「セザール」)である。パニョルの死後、ファニーは息子セザリオに、実の父がセザールの息子マリウスだと打ち明ける。セザリオは母に内緒でローロンにあるマリウスの自動車修理工場に赴くのだが…。個性いっぱい仲間たち、パニョル独特の愉快な台詞によって感動や笑いあふれる傑作。



©DR

Deuxième séance 17:15~

ニースについて À propos de Nice de Jean Vigo

1930年 / フランス / 31分 / モノクロ / サイレント / 35mm

監督：ジャン・ヴィゴ

29歳で夭折した天才映画作家、ジャン・ヴィゴによる処女作で、1929年から30年にかけての冬に撮影された。24歳のヴィゴは、一つ年下のカメラマン、ボリス・カフマンと出会い、「儚く、死が待ち構えているような快楽の街」を非神話化すべく、ふたりでニースに向かう。ドキュメンタリー的な映像と、シュレアリズムの手法に近いフィクション形式の映像を織り交ぜ、南仏のリゾート地でバカンスを楽しむ富裕階級の人々と、その裏で貧困生活を送る人々との対比をシニカルにスケッチしてみせる。ヴィゴのアンアーキスムと辛辣なユーモアがすでに爆発している。



©DR

天使の入江 La Baie des anges de Jacques Demy

1962年 / フランス / 80分 / モノクロ / 日本語字幕付 / 35mm

監督：ジャック・ドゥミ 出演：ジャンヌ・モロー、クロード・マン、ポール・ゲール、アンナ・ナシエ

遺バリで銀行員のジャックは、同僚に連れられて始めて訪れたカジノで大当たりして以来、ギャンブルの魅力にとり憑かれる。ニースで毎日カジノ通いをするジャックは、ジャッキーというブロードの美しい女性と出会い、結ばれてゆく。はたしてふたりを繋ぐのはギャンブルの偶然だけなのか、それとも愛なのか？ 次作『シェルブールの雨傘』で降り積もる儂い雪がすでに南仏の陽光に溶け込んでいるかのような、ドゥミの隠れた傑作。



©Ciné-lamiris

10月12日(土) Samedi 12 octobre

Première séance 14:30~

ラ・シオタ駅への列車の到着 L'Arrivée d'un train à La Ciotat de Louis Lumière

1897年 / フランス / 45秒 / モノクロ / サイレント / デジタル・ベータカム

撮影：ルイ・リュミエール 出演：ジャンヌ＝ジョゼフィン・リュミエール、ローズ・リュミエール、マルグリット・リュミエール、アンドレ・リュミエール、ジュザンヌ・リュミエール

海にほど近いフランス南部の小さな町で撮影された、映画の誕生を刻印する作品。地中海が文明の源泉であるというシンボリックな側面は『ラ・シオタ駅への列車の到着』と映画との関係に重ね合わせるができるだろう。才能溢れるカメラマンだったルイ・リュミエールが列車に対して対角線状にカメラを置いたことによって、到着する列車のスペクタクル的な側面が強調される。



©DR

サイコロ城の秘密 Les Mystères du Château de Dé de Man Ray

1929年 / フランス / 26分 / モノクロ / 日本語字幕付 / デジタル・ベータカム

監督：マン・レイ 出演：シャルル・ドゥ・ノアイユ、マリ＝ローレ・ドゥ・ノアイユ、ジャック＝アンドレ・ポワワール、マン・レイ
パリを出たふたりの旅行者が、長い旅の果てにある現代的な城に辿り着く。表情を隠した不可思議な登場人物は、この作品の出費者であるノアイユ子爵夫妻の親しい友人たちが演じている。開放的な別荘の驚くべき建築はマレ＝ステヴァン設計により、光、その雰囲気、そこから漂ってくる軽やかさが地中海の香りを醸し出している。「大きなサイコロと小さなサイコロを1組ずつ、そして絹のストッキングが6組、私はそれらをこの作品のすべての登場人物に被らせ、神秘性と匿名性をつくりだそうとした。」(マン・レイ)



©LR

地中海 Méditerranée de Jean-Daniel Pollet

1963年 / フランス / 43分 / カラー / 日本語字幕付 / デジタル・ベータカム

監督：ジャン＝ダニエル・ポレ(協力：フォルカー・シュレンドルフ) テキスト：フィリップ・ソレルス 音楽：アントワヌ・デュアメル
遺跡や廃墟や事物が、現代的な日常の瞬間を想起させる事物と並置されることで、地中海という「概念」が荒々しい現実との対決を迫られる伝説的「フィルム・エッセイ」。2010年、ジャン＝リュック・ゴダールは『ソシアリズム』でこの作品を引用し、ポレにオマージュを捧げた。「1秒24コマの流れに沿って、わたしたちは自ずと想像の国へと進んでゆき、そこでは感覚が理性にひらめきを与え、例外的なものに遭遇する。」(ノエル・シムソロ、「カイエ・デュ・シネマ」)



©DR

Deuxième séance 16:15~

ゴダール・ソシアリズム Film Socialisme de Jean-Luc Godard

2010年 / スイス・フランス合作 / 102分 / カラー / 日本語字幕付 / 35mm

監督：ジャン＝リュック・ゴダール 出演：アガタ・クーチュール、オルガ・リュザーノフ、パティ・スミス、アラン・バディウ、カトリーヌ・タンヴィエ

3楽章のシンフォニー構成で第二次世界大戦を核とする20世紀の歴史全体を透かし状に織り込みながら、現代ヨーロッパに透徹したまなざしに向けたゴダールの新たな傑作。第1楽章(こんな事ども)では、地中海を周遊する大型客船を舞台に、スペイン内戦の記憶を秘めた謎の老人ゴルトベルクを追うフランスとロシアの諜報員の暗躍が描かれる。第2楽章(どこへ行く、ヨーロッパ)は、スイス国境に近いフランスの片田舎でガソリン・スタンドを営むマルタン一家の物語。地方選挙に立候補することになっている両親に対して、子供たちがなぜ自分たちは立候補できないのかと真剣に問いかける…。第3楽章(われら人類)は、エジプト、パレスチナ、オデッサ、ギリシャ、ナポリ、バルセロナという6つの伝説的な場所をめぐる、映像と文章の無数の引用群のコラージュ。



©DR

11月9日(土) Samedi 9 novembre

Première séance 14:30~

ルル Loulou de Maurice Pialat

1980年 / フランス / 110分 / カラー / 英語字幕付 / 35mm

監督：モーリス・ピアラ 出演：イザベル・ユベール、ジェラルド・ドバルデュー、ギィ・マルシャン

結婚して3年目のネリーは、広告業を営む夫のアンドレとの生活に退屈していたところ、パーティーで、ルルという「ごろつき」と知り合い、強く結ばれてゆく。ピアラの自伝的な作品で、夫であるピアラの役をギィ・マルシャンが、ピアラのかつての恋人をイザベル・ユベールが、その愛人をジェラルド・ドバルデューが演じている。撮影期間は、当時若手俳優の中でも最も人気があったユベールとドバルデューの次の撮影までの2ヶ月と決められていたが、脚本から徐々に離れ、俳優たちの言葉とその身体を即興で記録していく撮影は2ヶ月を超え、中断される。完成された作品はカンヌ国際映画祭にて熱狂的に迎えられ、ピアラ、そして主役のふたりにとっても代表作となる。

*「フランス映画の知られざる巨匠 モーリス・ピアラ」特集 11月上旬、シアター・イメージフォーラムほか全国順次ロードショー



©DR

Deuxième séance 17:00~

黒いヴィーナス Venus noire d'Abdellatif Kechiche

2010年 / フランス / 164分 / カラー / 英語字幕付 / 35mm

監督：アブデラティフ・ケシシュ 出演：ヤヒト・トレス、アンドレ・ジャコブス、オリヴィエ・グルメ

「こんなに猿に似た人間の顔を見たことは今までなかった。」1817年、パリ、国立医学アカデミーで、サーティエ・バートマンの身体を前にして、解剖学者のジョルジュ・キュヴィエはきっぱりと述べ、その場にいた研究者たちはみな、彼の演説に拍手する。7年前、南アフリカを主人のカエザールとともに出国したサーティエはロンドンの見世物小屋で観客たちの好奇の目にさらされていた。足かせをはめられながら自由である女性サーティエは、「ホテントットのヴィーナス」と呼ばれ、いつかは上に昇ってゆきたいと夢を描く社会の底辺で暮らす人々のアイコン的存在であった。最新作『アデルの人生(仮)』が今年のカンヌ映画祭で見事最高賞であるパルム・ドールを受賞したケシシュの長篇4作目。俳優たちの身体と言葉から真実の感情を導き出そうとするその妥協することない演出は、しばしばフランス映画の巨匠のひとりモーリス・ピアラと比較される。



©MK2